



4月2日に行われた町長訓示では職員にあらためて新年度の方針が示されました。

### 健康増進

早期発見と予防充実  
乳幼児健康診査や児童虐待防止対策事業を継続し、異常の早期発見・早期治療につなげ、育児不安の解消を図ります。さらに、20年度から、より安心して出産育児に臨んでいただくため「妊婦健康診査の助成回数の増加」と「乳幼児予防接種広域化導入」を予算化し、重点施策として取り組みます。今般の医療制度改革に伴い、健康診断制度が変わる中、医療費抑制対策として、特に生活習慣病を改善することが強く求められています。これを受け、関係部署の連携のもとで特定健診を実施し、特定保健指導を充実させ、生活習慣病の発症予防、早期発見、早期治療に努めます。また、介護保険財政も健全化が急務であり、運動普及推進員や食生活改善推進員等の住民組織と協働し、介護予防事業を実施したいと思ひます。

### 診療所

コスモスの人院機能を廃止  
町内には、コスモス診療所と方城診療所の2つの診療所がありますが、それぞれ地域医療の拠点として、より質の高い医療提供を目指し、経営工夫を重ねているところです。しかし、医師確保という厳しい課題もあり、2つの診療所の運営につきましては、将来的な統合も視野に入れたら検討を進めたいと思ひます。とりわけ、コスモス診療所は、赤字経営の改善を図るため、20年度から入院機能を築く必要があります。もちろん、短期的な成果を見極めながら、努力を積み重ねなければなりません。そのような観点から、少人数授業ができる措置や読書に親しめる環境づくりを継続し、子ども達が明るく安心して学校生活を送れる取り組みも積極的に進めてまいります。加えて、現在

### 建設土木

予算内で最大効果を  
緊急性、予算規模等を考慮しながら、環境保全のための道路、歩道、河川等の整備や維持補修を行ってまいります。鉾害復旧等は、特定鉾害地域に起因する箇所陥没等に限定されますが、多くの復旧申し出がありますので、関係機関に対して強く働きかけたいと存じます。

また、就労事業では、暫定特定地域開発就労事業で20年度に上期6か所、下期6か所の計12か所の実施を予定しています。この事業は22年度までの暫定措置です。この期間内に最大限有効実施ができるよう努めたいと思ひます。さらに今後の雇用対策として、新しい事業の創設を引き続き検討してまいります。

農村地域の農道、農業用水路、溜池等農業施設の整備を行う県費補助事業の農村環境整備事業では、有効活用を図りながら農業振興に寄与し、平成20年度は5か所の農道を整備する予定です。

### 町営住宅

計画的な建替え実施  
現在、町営住宅は1,975戸で、昭和40年代から昭和50年代にかけて建設されたものが大部分を占めています。この数年老朽化が進み、建替えが必要になっていることから、20年度は1団地14戸、継続工事を

実施している学童保育の充実についても検討したいと思ひます。また、文化活動の充実を図る環境整備にも大いに力を注ぎたいと思ひます。私は「文化・イコール・人生」だと考えます。地域文化の振興度合いが町活性化の鍵を握っていると言つても過言ではないと思ひます。誰もが好きな時に、

2団地52戸の建替えを計画しているところです。また、伊方東区の住宅は、平成15年3月に住宅地区改良事業の地区指定を受けており、平成17年度から順次事業を推進しています。

### 入札制度

データの分析後実施  
公共工事発注は、19年度から部分的に一般競争入札制度を導入し、制度の趣旨をある程度把握していただけたものと思ひています。19年度は試行期間として考えていましたので、状況やデータを整理分析し、20年度の実施につなげたいと存じます。

### 水道事業

給水停止で徴収強化  
水道事業は計画給水人口が2万9千2百人で1日平均給水量は7千8百トン、経営は統合していますが施設は旧町のまま運営しています。今後、県が建設を進めている伊良原ダムの経緯を見ながら、施設統合を検討し、ダム完成後も影響のない配水管の連結等は実施する予定です。経営面では、18年度決算で875万円の黒字でしたが、これは合併に伴う調整措置で、一般会計から2千万円を繰り入れた結果です。言うまでもなく企業会計は独立採算が原則ですので、今後とも維持管理費の節減に努めます。なお、水道料金の滞納額は18年度決算で2億5千万円以上に膨れ上がっており、その解消に向け、20年度は給水停止も含め、徹底した徴収強化を図ります。

### 教育文化

長期的な視点で推進  
私は「教育によるまちづくり」を町政推進の柱に据えています。その取り組みは、すぐに効果を現すものではありません。しかし、教育は国家百年の計、と言われるように、長期的な視点で将来の町の礎

を築く必要があります。もちろん、短期的な成果を見極めながら、努力を積み重ねなければなりません。そのような観点から、少人数授業ができる措置や読書に親しめる環境づくりを継続し、子ども達が明るく安心して学校生活を送れる取り組みも積極的に進めてまいります。加えて、現在

# 新 副町長に白石博文氏

平成20年第1回福智町議会定例会で福智町副町長の選任について同意され、松木孝史氏の後任として、白石博文氏が4月1日付け(任期4年)で副町長に就任しました。

## 白石博文 新副町長 就任あいさつ

副町長就任にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。この度、3月議会におきまして副町長のご承認をいただき、4月1日付で福智町副町長に就任いたしました。



顧みますと、この私も責任者として合併に努力した一人であり、その後の福智町の町づくりに対して深い関心を持って見守っていたところでしたが、この度、このように副町長の要請を受け、熟慮のうえ福智町のために身を挺する覚悟でお受けすることにいたしました。

これからは、議員の皆さんをはじめ、町民各位のご指導とご鞭撻、ご協力をいただきながら浦田町長を支え、「信なくば立たず」を座右として、安全で安心して生活できる町づくりに不退転の決意で行政運営に勉める所存でありますので、今後なにとぞよろしくお願い申し上げます。

粗辞ではございますが、就任のご挨拶といたします。

## PROFILE

【白石博文副町長プロフィール】昭和36年に旧方城町職員に採用され、旧方城町課長を経て、平成11年9月に旧方城町の町長に就任。平成15年9月に再選し、旧方城町長2期目を務める。福智町合併協議会では副会長として3町合併に尽力した。福智町伊方出身。田川農林高等学校卒業、昭和15年5月生まれ。

## 松木孝史 前副町長 退任あいさつ

このたび、平成20年3月31日付けをもちまして福智町副町長を退任いたしました。

合併して間もない福智町のまちづくりのため、微力ではありましたが参画することができましたことは、私にとりまして光栄なことであり、貴重な経験となりました。



福智町が誕生して2年が経過しましたが、今後とも、町民の皆様が一体となって、すばらしいまちづくりを進められることを期待しております。終わりに、今後の福智町の益々のご発展を願い、また、町民の皆様のご健勝をご祈念申し上げ、退任の挨拶といたします。

## PROFILE

【松木孝史前副町長プロフィール】平成2年に福岡県職員に採用され、平成16年4月から総務部地方課理財係の係長。平成18年7月に福智町助役に就任、平成19年4月からの地方自治法改正で副町長となる。20年4月からは福岡県企画振興部合併支援室の企画主幹。長崎県出身、専修大学卒業、昭和37年生まれ。